

目 次

第2版はしがき

凡 例

序 章 債権法の世界 I

- 1 債権法の世界 1
- 2 債権と債権法 2
- 3 本書の構成 6

第1部 契 約

1 章 契約の意義・成立 10

- 1 契約の意義・種類 10
- 2 契約の成立とは 13
- 3 申込みと承諾による契約の成立 15
- 4 定型約款 19
- 5 第三者のためにする契約 20

2 章 契約の不履行 23

- 1 契約の不履行と救済 23
- 2 履行の強制 25
- 3 債務不履行による損害賠償(要件) 28
- 4 債務不履行による損害賠償(効果) 35
- 5 受領遅滞 41

3章 双務契約 43

- 1 双務契約の意義 43
- 2 同時履行の抗弁 43
- 3 危険負担 46
- 4 契約の解除 49

4章 売買・贈与・交換 55

- 1 売買の意義 55
- 2 売買の成立 56
- 3 売買の基本的効力・買戻し 57
- 4 契約不適合責任(担保責任) 60
- 5 贈 与 67
- 6 交 換 69

5章 消費貸借・使用貸借 70

- 1 消費貸借の意義 70
- 2 消費貸借の成立 70
- 3 消費貸借の効力 72
- 4 利息の規制 73
- 5 使用貸借(付－配偶者短期居住権と配偶者居住権) 74

6章 賃 貸 借 77

- 1 賃貸借の意義・成立 77
- 2 賃貸借の効力 79
- 3 賃貸借の存続期間 83
- 4 賃貸借の終了 86
- 5 賃借権の譲渡・転貸 88
- 6 賃借権の対抗ほか 91

7章 役務提供契約 96

- 1 役務提供契約とは 96
- 2 雇 用 97
- 3 請 負 99
- 4 委 任 105
- 5 寄 託 107

8章 その他の契約 109

- 1 組 合 109
- 2 終身定期金 113
- 3 和 解 113

第2部 債 権

9章 債権の目的 116

- 1 債権総論の内容 116
- 2 債権の目的 116
- 3 民法典における各種の債権 118

10章 債権者代位権・詐害行為取消権 124

- 1 責任財産の保全（債権の保全） 124
- 2 債権者代位権の意義・要件 125
- 3 債権者代位権の行使・効果 126
- 4 詐害行為取消権の意義・要件 129
- 5 詐害行為取消権の行使・効果 133

11章 連帯債務・保証債務 135

- 1 多数当事者の債権債務関係 135
- 2 連帯債務の意義・成立 137

- 3 連帯債務の効力 138
- 4 保証債務の意義・成立 141
- 5 保証債務の効力 143
- 6 特殊な保証 148

12章 債権の譲渡・債務の引受けほか 150

- 1 債権譲渡の意義・成立 150
- 2 債権譲渡の対抗 151
- 3 債権譲渡の制限 155
- 4 債務の引受け 157
- 5 契約上の地位の移転 159

13章 弁 済 161

- 1 債権の消滅と弁済 161
- 2 弁済の提供 163
- 3 供託（弁済供託） 166
- 4 弁済の受領権者（弁済の相手方） 167
- 5 弁済の証拠・弁済の充当 172
- 6 第三者の弁済・弁済による代位 173

14章 相 殺 177

- 1 相殺の意義 177
- 2 相殺適状・相殺の禁止 178
- 3 相殺の方法・効果 181
- 4 差押えと相殺 181

第3部 不法行為ほか

15章 不法行為の意義・要件 188

- 1 不法行為の意義 188

2	故意・過失	190
3	権利侵害（違法性）	194
4	因果関係	201
5	不法行為の成立を阻却する事由	202

16章 不法行為の効果 205

1	不法行為の効果とは	205
2	金銭賠償の原則と差止め	205
3	損害の意義と損害賠償の範囲	206
4	損害賠償額の算定（損害の金銭的評価）	209
5	損害賠償請求権	215

17章 特殊な不法行為 221

1	特殊な不法行為とは	221
2	責任無能力者の監督義務者の責任	221
3	使用者責任	223
4	注文者の責任	225
5	土地工作物責任	225
6	動物占有者の責任	227
7	共同不法行為	227
8	特別法上の不法行為	230

18章 事務管理・不当利得 235

1	事務管理	235
2	不当利得の意義	237
3	侵害利得	238
4	給付利得	240
5	その他の不当利得	242

読書案内

事項索引

判例索引